

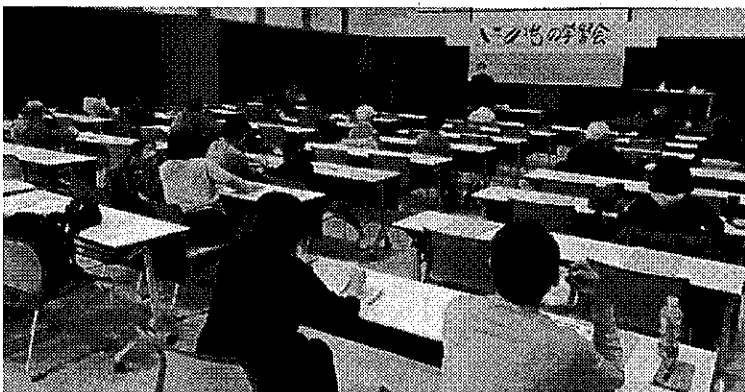
# 秋厚労ニュース

# 住民が お産について話し合う

鹿角

「いのち」の学習会

11月27日（土）、鹿角市文化交流館コモッセにて、鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会・鹿角の産婦人科を守る会が共催で「『いのち』の学習会」を開催し、40人が参加しました。



産婦人科を守る会と共催 いのちについて学ぶ

市民町民の会と守る会は、毎月、鹿角市等と「鹿角の産婦人科医療に関する合同会議」を開催。今回の学習会についても、合同会議で話し合ってきました。

講師は助産師・岡野真規代さん

次世代につなぐ日本の文化  
幸せな「いのち」のバトン

講師は、女性と子どものサポートセンター「いのちね」（鳥取県智頭町）の助産師・岡野真規代さん。「次世代につなぐ日本の文化 幸せな『いのち』のバトン」と題し、愛知県の吉村医院で

学習会の目的は①合同会議の方向性の一環として「いのち」について学ぶ②鹿角における産婦人科医療のあり方について皆で話し合う、等です。

ない。「よく体を動かす、日本人にあつた和食中心に腹八分目を心がける、仲間と一緒に妊娠を楽しむ」ということです。

自然なお産に立ち会った経験を基に話しました。現代人は運動不足気味。それが難産の原因にもなると言います。

吉村医院の隣の「お産の家」に妊婦さんが集まり、妊婦ピクニック、薪割り、雑巾がけスクワット等を行います。続けると「産めそう！」という自信にもつながります。赤ちゃんとお母さんは、キラキラ光って見えるそうです。

吉村医院の吉村医師がよく言ったのは「ゴロゴロ・パクパク・ピクピクし

その人その人のお産の形があり、「こういうお産も出るんだ」と教わったと言います。

鳥取県智頭町「いのちね」

お産できる環境目指す

智頭町は「育みの郷構想」を掲げ、子どもが自然の中で過ごすことを重視する「森のようちえん」や、自主性・主体性を尊重する「サドベリースクール」があります。町に分娩施設はなく、お産できる病院まで約1時間かかります。

安心して出産・楽しく子育てできる環境をつくるため、力を貸してくれる医師を探しています。

市民の話し合い大事

2016年に「いのちね」が設立され、岡野さんたちは「いのちの授業」や妊婦ピクニック等を開催。

学習会の後半は、参加した人同士の話し合いです。「出産の時に大館へ行かなければならない。お産ができれば良いのか、安全なのか、市民が話し合っている必要がある」と吉村医院で

「出産の時に大館へ行かなければならない。お産ができれば良いのか、安全なのか、市民が話し合っている必要がある」と吉村医院で

「出産の時に大館へ行かなければならない。お産ができれば良いのか、安全なのか、市民が話し合っている必要がある」と吉村医院で



の出産のように、夫婦で向き合えたら仲間も良いだろうな。妊婦ピクニックなら鹿角でもできそう」「安心して出産できる環境、いのちを考える環境をつくりたい」と、話は尽きません。

「妻が妊娠した時、男性は何をサポートすれば良いですか？」との質問には、岡野さんは「女性に寄り添ってあげること。どうしてほしいのか、よく話し合ってください」と答えます。

最後に岡野さんは「みんなの声を上げること。鹿角市は市民がこうやってお産について学ぶ。すごいと思う。今は生みの苦しみ、これからきつと成果が出てくる」と話しました。